

第71号・平成23年9月発行  
 国分寺市明るい選挙推進協議会  
 国分寺市選挙管理委員会  
 〒185-8501 国分寺市戸倉一丁目6番地1  
 TEL:042(325)0111 内線:367・368  
 http://www.city.kokubunji.tokyo.jp

国分寺市選挙人名簿登録者数  
 男 47,669人  
 女 48,982人  
 計 96,651人  
 {平成23年  
 9月2日  
 現在}

# こくぶんじ しろばら



節電のため、暗い駅頭での啓発



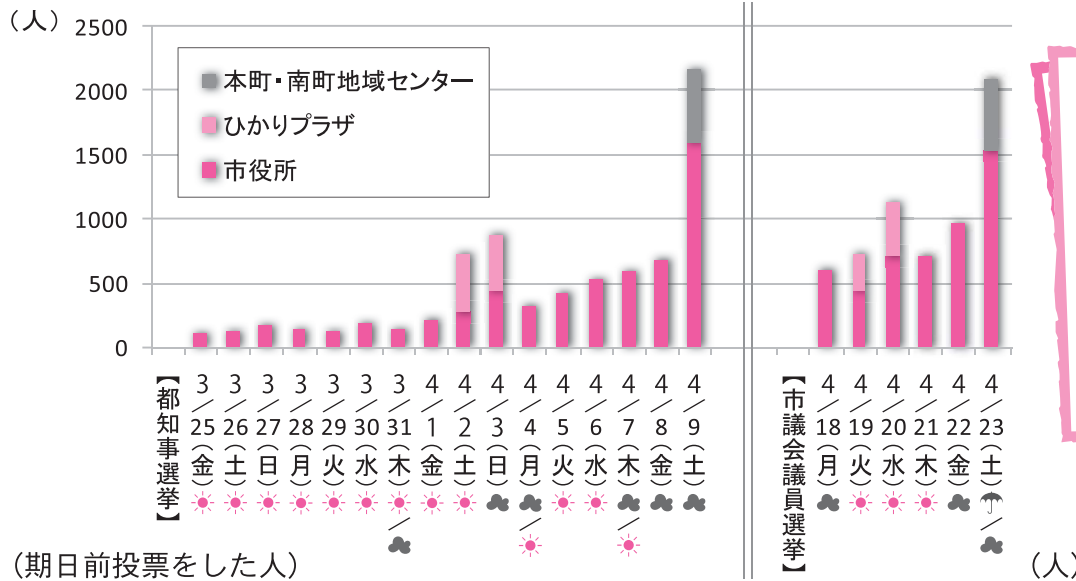
## 平成23年 統一地方選挙の風景



開票所の様子



## 日別の期日前投票者数



※期日前投票は、平成15年12月1日から施行され、国分寺市では平成16年の参議院議員選挙から実施されました。また本町・南町地域センターは、平成22年から増設されました。

(期日前投票をした人)	市役所	ひかりプラザ	本町・南町地域センター	合計
都知事選挙	6,006	906	579	7,491
市議会議員選挙	4,963	696	558	6,217



## 講演会のお知らせ

講師 小島 貴子氏

テーマ 『日本の高齢化・少子化での労働変化と家族関係』

- 日時：平成23年9月28日(水) 午後1時30分より
- 会場：市立いずみホール
- 入場：無料(先着順・定員370名)

明るい選挙推進協議会と選挙管理委員会では、毎年共催で講演会を開催しています。今回は、テレビ・新聞等で活躍の小島貴子氏を講師に迎え、「日本の高齢化・少子化での労働変化と家族関係」をテーマに、様々な経験の中で得られた豊富なご見識を基に、女性の目線で鋭く、わかりやすくお話しいただきます。皆様お誘い合わせのうえ、是非ご来場ください。なお、会場には駐車場がありませんので、お車での来場はご遠慮ください。(手話通訳があります)



小島貴子氏

### 小島氏：プロフィール

1958(昭和33)年福岡県生まれ 二男の母 三菱銀行勤務後、7年間の専業主婦を経て、91年に埼玉県庁に職業訓練指導員として入庁。7年連続で職業訓練生の就職率100%を達成。05年に退庁。同年立教大学の社会と大学を結びつける「コオプ教育コーディネーター」に就任。07年同大学院ビジネスデザイン研究科特任准教授に就任。11年より東洋大学経営学部経営学科准教授。また、08年より東京都明るい選挙推進協議会委員。数々の公職に就きながら、執筆・講演会をこなし、新聞・テレビでも活躍中。

## 生きる一票、尊い一票を

国分寺市身体障害者福祉協会 理事 本田 昭彦

さる四月二十四日の国分寺市議会議員の選挙の結果を見て、私はあまりにも投票率の少なかったことに、あ然といたしました。東日本大震災があった後で、立候補者の方も選挙運動を自粛したせいか、選挙カーもあまりまわって来ませんでした。それに有権者の皆様も出掛けることを控えていたので、こんな寂しい結果が出たのではないかと、私なりに判断いたしました。

わたくし事を言って恐縮ですが、私は、選挙権を得てから六十二年の間に一度も選挙を放置したことはありません。有権者の一人として義務を果たしてきたわけです。この間、国政選挙・都政選挙・市政選挙が数多くあったように思いますが、私は白杖をついて進んで選挙に参加させていただけました。私は視覚障害者なのでいつも点字投票をいたします。一番初めの頃は、係りの方が点字投票をどうしてよいか戸惑ったようですが、今は点字の表があって、合わせて解説するので簡単に開票できるようになっております。

障害をお持ちで、選挙に行くのをためらう方もいらっしゃると思いますが、投票所に行けば代理投票なども利用できますので、是非政治の上に自分の考えを反映させてください。政治の良い悪いを論ずるには、自分が責任を持って投票に行かなければなりません。権利を主張するには、自分が義務を果たすことが肝要でございます。あなたが一票を投ずることによって、日本の国は平和であり、明るい町ができるのです。今後、皆さん棄権することなく、どんなことがあっても必ず選挙に参加いたしましょう。

私が選挙に行く前には、家内に立候補者の政見を読んでもらい、この人ならと思った人を、私は点字で投票いたしました。投票を終えた後の心の健やかさは、なんとも言いようのない気持ちの良い心持ちになります。私の一票が政治に参加できたのだと自負しております。皆さん、尊い一票をこれからも決して棄権しないで、投票に行きましょう。私は、今後も元気なうちは必ず選挙に行きたいと思います。

(本田さんご本人が録音されたテープから、文章にしました)

### 投票立会人を募集しています!

投票所で、選挙が公正におこなわれるよう、投票事務全般について確認していただくお仕事です。詳しくは、選挙管理委員会事務局までお問い合わせください。



### 編集後記

しろばら七十一号をお届けいたします。東日本大震災直後の不安な中で、四月に統一地方選挙がおこなわれました。選挙は私たちが政治に参加できる唯一のチャンスです。大切な票を無駄にせず投票いたしました。未曾有の巨大地震、大津波、原発事故と三重苦に見舞われた東日本が、元の美しい姿に戻るまで、国中で支援を続けてゆきたいものです。しろばら発行にあたり、お忙しい中ご寄稿くださいました皆様、ありがとうございました。

# 平成23年統一地方選挙の結果

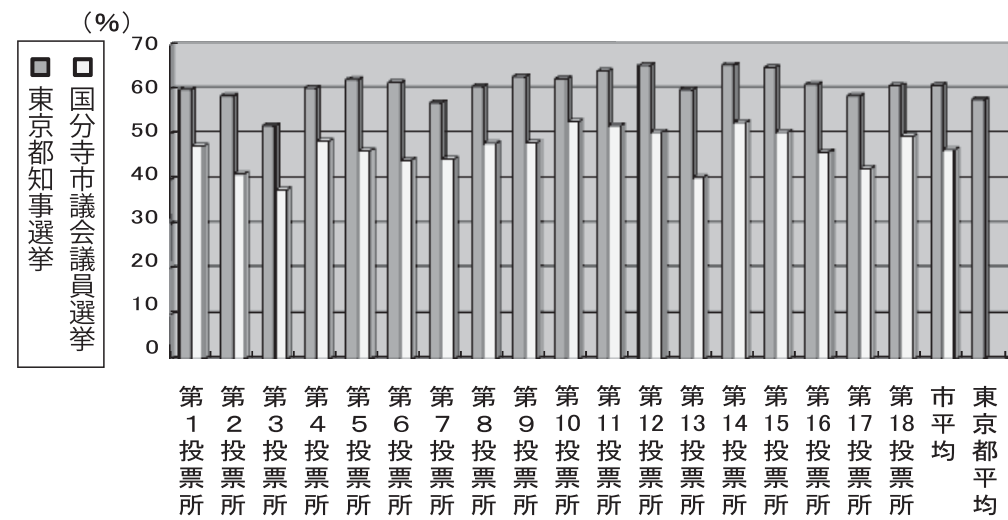
## <国分寺市の投票率>

- ◇平成23年4月10日執行 東京都知事選挙 60.89% (前回 ▲1.90%)
- ◇平成23年4月24日執行 国分寺市議会議員選挙 46.51% (前回 ▲2.37%)

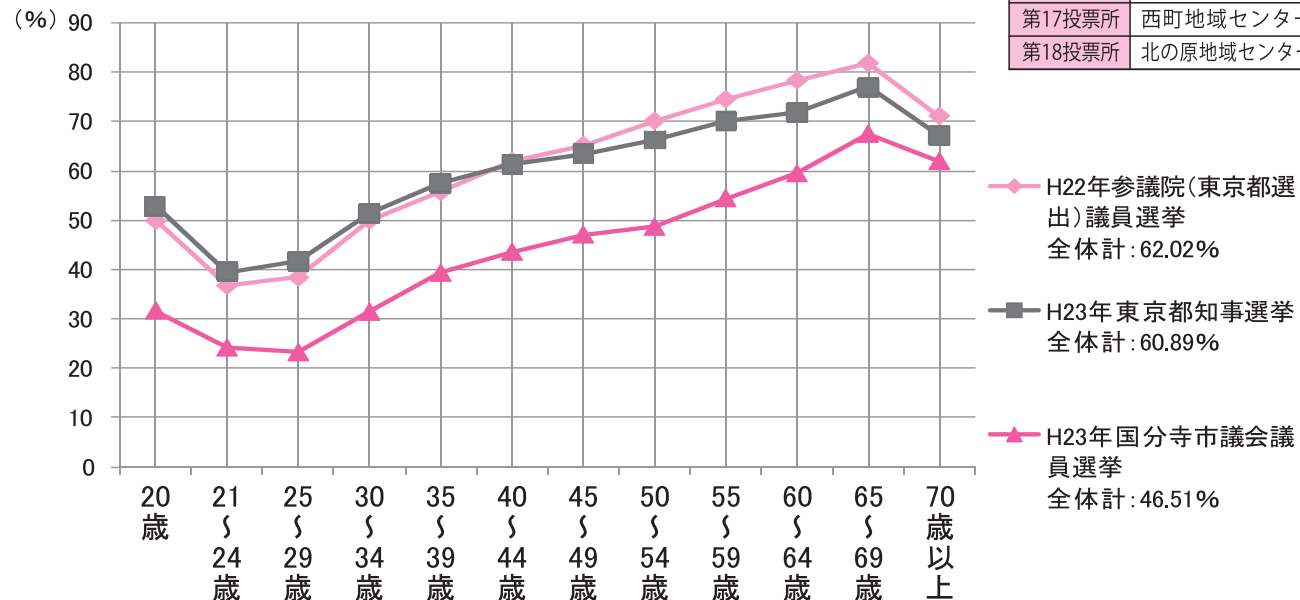
## ◆男女別投票者数および投票率◆

区分	当日有権者数			投票者数			投票率		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
東京都知事選挙 (前回：H19年)	46,918 (46,508)	48,337 (47,291)	95,255 (93,799)	28,001 (26,802)	29,997 (28,526)	57,998 (55,328)	59.68 (57.63)	62.06 (60.32)	<b>60.89</b> <b>(58.99)</b>
国分寺市議会議員選挙 (前回：H19年)	46,204 (45,750)	47,614 (46,615)	93,818 (92,365)	21,008 (21,495)	22,627 (23,650)	43,635 (45,145)	45.47 (46.98)	47.52 (50.73)	<b>46.51</b> <b>(48.88)</b>

## ◆各投票所の投票率◆



## ◆年代別投票率◆



## 投票立会人を経験して考えたこと



西町 藤永 明夏

二十歳というところで、新成人として投票立会人をさせていただきました。投票者の年齢は、やはり高めの人が多かったです。同年代の投票者は五人に一人かと。「自分の一票で世の中は変わらない」と思うからでしょう。世間でも若年層の投票率の低下が心配されています。将来の総投票数の低下に繋がると思います。

外国の選挙を見てみると、アメリカでは、選挙で投票権を行使したい有権者が、自ら選挙人名簿に登録する申し込み方式をとっているのですが、選挙に国民全員が興味を持つかは難しいと思います。一方、投票率八十パーセントを超えるイタリヤですが、この国には罰則があるそうです。投票を棄権する場合は理



由を役所に届けなければならず、届け忘れられたり理由の正当性を認められなければ、不投票者として氏名が公に告知されるということ。公務員採用試験などで、不利になる場合もありますが、投票のため故郷の選挙区に戻る場合交通費の割引もあり、選挙は故郷で親兄弟や友達に会う絶好の機会、同窓会にもなっているようです。もちろん国が負担する費用は莫大ですが、国の将来を考えれば価値があると思います。

自分の一票で世の中が変わる！そう一概には言い切れませんが、ちがう見方もできると気付かされ非常に嬉しく思います。日本でも、もっと選挙の大事さを考えてほしいです。

## 明るい選挙推進委員になって

坂井 達明

平成二十年四月に、明るい選挙推進委員に委嘱されて三年が過ぎました。平成十八年に四十年勤めてきた会社を退職し、国分寺に住居を構えました。ある面、片寄った職業人をしてきたのではとの反省から、今までを一切リセットしてみようと色々な事にチャレンジしています。小さな子ども達あるいは障害者の方達への関わり、市民農業大学、市民防災まちづくり学校での体験、公民館活動での山や森の整備、その他いろいろなボランティアに参加しています。それもあってか、ある方から勧められ、全くその活動を勉強しないまま受けてしまいました。私にとって選挙は棄権したことがないというくらいに関心事でした。委員として活動させていただくと、やはり今までやって来た仕事とは大分違う世界で戸惑っています。しかし選挙に対する意識が変わったのも事実で、

先輩や経験豊富な方達と協力して行こうと思っています。私が会社に入社した当時から、「会社が君に何をしてくれるかではなく、君が会社に何をするかだよ」と言われました。国や政治に対しても同じことが言えるのではないかと思います。主権在民や国民の責任と義務が良く言われますが、国民や市民が国や市や町に何をしてくるかも、一人一人が考えて行かねばと思います。いろいろな不満を言うのは簡単ですが、その前に自分自身が、何をしたいのかを考えて見てもいいのではないかと思います。

先の東日本大震災は本当に大変なことが起こってしまいました。心からお見舞い申し上げます。これを機会に私自身も含めて日本人各人が、もっと政治への関心を高めるチャンスにして行けたらと思います。

